

実践講座第二十一回 『お白土を運搬』

急度申遣候 此度於ニ

上野一 厳有院様御

仏殿御作事御用ニ付

成木村^{より}白土御取寄候

依^レ之小川新田近辺之

御料私領^{より}助馬合

三拾疋之積、其村え

出シ候様ニと御老中并

御頭中^{より}御証文被^レ下候

就^レ夫小川新田近辺

御料私領^{より}其村へ助馬

為^レ出候間可^レ然場所可^レ

承候間勝手存知候組頭

忝人召連夜通早々

江戸え可^レ参候、油断仕

間敷候、此方え参候跡ニ而も

右御用馬無ニ遅々一出候

様ニ百姓方へ急度申付

可^レ参候、但御証文者

此方ニ留置候、以上

小川新田

名主

組頭

「用語」

厳有院様…四代將軍家綱(在位1651～1680)の諡号。墓所は上野寛

永寺。靈廟は延宝九(1681)年に完成した。

白土…石灰。建築・製陶等の資材、セメント混合剤などにする。

助馬…宿駅常備の馬以外、応援のため準備させた馬。

御料…幕府の直轄地。

私領…大名・旗本・御家人など、直轄地以外の領地。

頭中…道中奉行のこと。(「どう」の当て字)。五街道及び付属街道

宿駅の取締などを管掌した幕府の役職。

「解説」

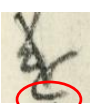
今回『郡中制法』はひと休み。將軍家綱崩御の後、上野(寛永寺)に靈廟を造営する白土の運搬についての文書を紹介します。小川村近辺から継馬を合計三十疋調達するので、勝手のわかる組頭を一人つけ、油断せず任務にあたること、夜通して急ぎ江戸に向かうこと、江戸からの帰路も早急に戻ることに、などが指示されています。青梅街道は、もともと青梅の成木村で採掘される白土を江戸へ運ぶために開通され、成木街道とも呼ばれていました。小川

村は街道の中継地点として要衝だったため、開村の際は入村者に馬を持つことを条件としていました。また、文中の「小川新田」とは小川村のことです。本講座十五回目「小川新田開発願」で紹介の通り、小川新田の開発以前は小川村を小川新田としていました。「小川村」は、新田開発以降の呼称です。

次に文字を見ていきましょう。

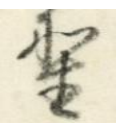


「遣」は頻出です。

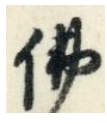


しん

よ。の部分は下部の僅か一部分ですから、見逃さない様にしましょう。本講座の九回目と十二回目にもしんのようにを紹介していますので、そちらも参照してください。



「野」は旧字「墅」、



「仏」は旧字「佛」の表記です。



「土」はカタカナ「ム」に近似して

います。



この部分は古字「



」の最終角の点の名残です。8行

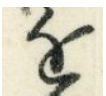


目「と」は「者」に似ていますが「与」です。



「近辺」でま

たしんのような登場です。



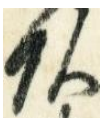
「近」は「を」と間違えやすいですが、

一画目の横棒の有無

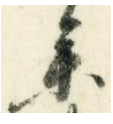


「遠」で判断しましょう。但し、「遠」は「を」

と同じ字です。



「頭」は難解ですが、この形が一般的です。



「参」は読めましたか。



「来」と酷似していますが、真ん中の縦

棒が突き出ているのが「来」です。